

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

新年度を迎え半月が経過いたしました。皆様にかかれましては如何お過ごしでしょうか。

さて、愛知県議会では2月定例会が先月24日に閉会となり、今年度予算をはじめ全ての議案を可決承認いたしました。特に一般会計予算については、県内企業の業績予測を踏まえ、県税は対前年度803億円減収となる厳しいものとなりました。

しかしながら、この様な厳しい財政状況下にあっても、誰もが安心して生活できる社会づくりを目指し、予算審議の過程では、本会議においては、超高齢社会に備え、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続ける事が出来るよう、医療・介護・地域が連携して取り組む「地域包括ケアシステム」の構築に関する質問・提言を行いました。

また、所属しております産業労働委員会においては、「産業首都あいち」の更なる発展に向けて、産業空洞化対策・次世代産業の育成・中小企業支援策等についても質問・提言を行いました。その中でも次世代産業の育成に関しては、我が県の基幹産業である自動車産業の継続的発展に向け、自動走行技術の確立について県の考えを質しました。

本県では、昨年度は豊田市をはじめ県内15ヶ所において、超高齢社会や交通不便地域に対応する新サービスの創出や、交通事故を始めとした交通課題の解決に向け、公道における自動走行の実証実験を行いました。今年度は更にステップアップし、運転席には誰もいない遠隔型自動走行システムを活用した実証実験を県内数ヶ所で実施し、この実証実験で得られた技術ノウハウを民間企業に無償提供する予定である事を確認しました。

今後は、この実証実験を通じて、自動走行が早期実現する事を期待しております。



愛知県議会議員

こたま よしかず

樹神 義和 